

3例はTURのみにて保存的に加療している。他の5例は膀胱全摘術施行した。そのうち1例の摘出膀胱の腫瘍を認めE部は、腫瘍組織の痕跡のみで明らかな腫瘍組織は認められなかった。これは浸潤性膀胱癌に対し膀胱を保存的に加療できる可能性が示唆されたと思われる。

### 23. 女性尿道 Inverted papilloma の1例

富岡 進, 南出雅弘, 川村健二  
日景高志 (東京厚生年金)

患者62歳, 女性。排尿痛と外陰部からの少量の出血を主訴に, 1990年7月10日当科を受診した。外尿道口6時の位置より突出した, 暗赤色, 小豆大の表面平滑な腫瘍を認めたため, 腫瘍切除術を施行した。核分裂像, 異型性等は見られず, 組織学的に Inverted papilloma と診断された。

### 24. 前立腺嚢胞が疑われ尿閉をきたした1例

中村 剛, 村山直人, 大塚 薫  
遠藤博志 (松戸市立)

症例: 67歳男性。主訴: 排尿困難。前立腺触診上小鶏卵の硬結を数個認め前立腺嚢胞が疑われたため生検施行。癌は否定された。CT 施行したところ前立腺部に嚢胞を認めた。しだいに排尿困難強くなり尿閉をきたしたためバルン留置し, 嚢胞に対し透視下に穿刺, 吸引, アルコール固定施行した。一時的に排尿状態改善したが再び尿閉をきたしTUR-P 施行した。術後排尿状態に変化なくCT で尿道球部に嚢胞を認め穿刺で排尿状態改善した。

### 27. 前立腺癌の ACTH 産生能

鈴木規之, 坂井誠一, 北村 温  
(国立精神・神経センター・国府台)

67歳男性。大転子部痛にて当院整形外科入院。検査により, クッシング症候群と転移性骨腫瘍が見られ, 原発巣は前立腺癌と判明した。腫瘍より, ACTH の産生が確認された。ACTH 産生前立腺癌は10例報告されており, 本邦では1例目に当たる。症状としては典型的なクッシング様体型は少なく, ホルモン療法などが試みられるも予後不良である。病理は分化度の低い腺癌が多い。

### 28. 陰嚢内転位精嚢の1例

武井一城, 永島 薫, 片海七郎  
(君津中央)

右陰嚢内の無痛性腫瘍を主訴とする17歳, 男性に右陰嚢内転位精嚢, 右精管欠如症, 右射精管欠如症を認め

た。右精索部に小指頭大の腫瘍を触れ, 精索腫瘍を疑い手術施行。腫瘍は精管に連なり, 術中の精嚢腺造影より転位精嚢と判断, 腫瘍を精管とともに摘出した。精管は精巣上体との連絡を欠き, 腫瘍より遠位に精管はなかった。病理所見は精嚢腺。造精能, 左副性器, 上部尿路の異常の有無は検査できなかった。転位精嚢の1例を報告した。

### 33. 原発性陰嚢内硬化性脂肪肉芽腫の2例

永島 薫, 武井一城, 片海七郎  
(君津中央)

40歳と37歳の男性。主訴は無痛性陰嚢内腫瘍。陰茎根部にY字状の腫瘍を認め, 4~6週の経過で消失した。生検による病理診断は硬化性脂肪肉芽腫であった。2症例とも異物注入, 薬液使用, 外傷等の既往はなく, 特に治療を必要としなかった。再発の徴候は認めていない。

### 36. 副甲状腺癌の1例

辻 博勝, 中津裕臣 (千大)

39歳男性で, 関節痛・全身倦怠感を主訴とし来院。血清 Ca 13.7mg/dl, P 1.8mg/dl, HS-PTH 15000pg/ml, % TRP 61%と副甲状腺機能亢進症状を呈し, 右前頸部に拇指頭大の腫瘍を触知。左腎結石, 線維性骨炎も伴っていた。副甲状腺癌を疑い, enbloc resection を行った。38×30×19mm, 5.5g の腺癌で, 4カ月間再発を認めていない。

### 40. カラー Doppler 法の泌尿器科応用

香村衡一 (国立佐倉)

カラー Doppler 法は, 陰嚢内容, 移植腎, ブラッドアクセスの血流診断法として実用段階に入った。自己腎の血管病変や腫瘍病変の診断法としては, 限界はあるが一部有用性を認めた。以上については自験例の呈示を行なった。文献的に, インポテンツの診断, 手術(腎部分切除, 腎動脈瘤)への応用, 腎前立腺穿刺生検への応用, 腎血流量の評価, 尿流動態, 腎結石の診断への応用などが試みられていることにも言及した。

### 41. PR における軟性膀胱鏡の使用経験

結城崇夫, 甘粕 誠(鹿島労災)

患者の疼痛軽減を目的とし, 軟性膀胱鏡による R-P を施行した。対象は34歳~67歳の男性8例で, 全例とも局所粘膜麻酔のみにて施行し, 疼痛を訴えることなく, カテーテルの挿入は可能であった。R-P において軟性膀胱